

令和6年6月22日(土)
武石史跡めぐりウォーキング



稲荷神社
北沢氏の氏神様。流行病退散祈願として建立
120段の石段の上と下に鳥居のある立派な社で
あった。(武石村誌 現代より)



練馬自然の家



美ヶ原高原へ

武石の交通
武石には5つの峠があります。その中で一番長く険しいのは松本浅間温泉へ行ける『武石峠』です。武石峠を下ってくると「巢栗」の集落があります。ですので巢栗は峠を越えてきた旅人を取り締まったり、世話をつかさどる番所のあった場所とも考えられる。「番所が原」という地名もあります。韓国の古語に主計をスグリと読むとか…それは村の長の意味という人もいたそうです。
大布施集落も近く、布施は峠の村麓によくある地名で、峠で難渋する人が、仮に臥せる(ふせる)家、また、そこで粥などを施した例もあるようです。
下小寺尾地区には『熊沢峠』があり、丸子の霊泉寺に行ける峠もあります。(武石村誌 民族より)

築地原の地藏様
社の中のお地藏さん
このお地藏さんは子育て地藏、安産地藏、いぼとり地藏などと言われます。
昔は道端に立っていたそうです。ところが、このお地藏さんの前を馬に乗って通ると、馬が急に暴れだし、乗っている人が落とされることが多かったとか。そこで村人たちは、お地藏さんを大切にしないからだということになり、お社を造ってその中に安置してお祭りを欠かさなかったとのことです。祭りは子供たちが船を作って「チャチャリ ヨイヨ レッラッ ヨイヨ」とロで囃しながらお船引きの祭りを4月に行ったようです。(武石村誌 民族より)

風天様
岩壁の上に立ち眼下に広がる谷あいの風をコントロールしていると言われれば、何か不思議な力に宿っているようにも見える。
武石の小寺尾・築地原地区は、昔から美ヶ原から吹き降ろす強い風が谷あいを抜ける風の強い土地です。農作物の被害も多く出るため、明治の中頃、小寺尾の方々は土地の持ち主にたのみ、風天様を岩の上に建て、祀ったと言われているようです。身長は80cm
『願いごと 聞いてくださる 風天様』と、ふるさとかるたで読まれ、今も小寺尾・築地原を見守っています。(「住みよい武石」様より資料提供)
*風天は、古代インドの風の神。仏教では、西北方の守護神。十二天の・八方天の一

踊念仏供養塔(小寺尾の踊念仏供養塔)
供養塔は縦165cm、横36cm、厚さ30cmの角柱で県下でも最大規模と言われている。
供養塔の由来は、天明朝は気候が不順で凶作が続いた上、浅間山の大噴火があり、村人達は祖先の伝えてきた念仏を上州沼田に譲り渡してしまった祟りと考えた。
そこで天明3年に踊念仏供養塔を建立し、八十八夜の日を祭日とし供養するようになり今日に至っている。(上田市ホームページより)
『いのりをこめ 踊念仏供養塔』と、再建した供養塔をふるさとかるたで読まれています。
*踊念仏…多数の人が念仏を唱えながら踊り、三昧の境地に入る所作。信心を得て、往生する喜びがおのずと踊りとなって現れる。

大布施のひがん桜
彼岸桜は桜の中で最も寿命が長いと言われている。
武石大布施の彼岸桜は樹齢330年と推定され、高さ16m、幹回り約5m30cmあり、武石地域にある彼岸桜の中で最も大きい。
毎年4月下旬から5月上旬にかけて開花し、新緑に映える姿は圧巻です。(上田市ホームページより)

築地原トレーニングセンター
昭和43年に閉校した築地原分校。その後本校に統合されました。現在は体育館として利用(本日の集合場所)